

◇現在の、裾野の取り組みについて

問5 市では次のような取り組みを行っています。それぞれの項目について、あなたはどの程度満足していますか。また、その取り組みは重要であると思いますか。

(満足度については番号に、重要度についてはアルファベットに、それぞれ○は1つずつ)

ここで挙げる項目は『第3次裾野市総合計画後期計画』に定められた施策と対応する。※下表参照

① みんなの健康 互いの福祉 人づくりと文化を世界に誇る(健康・福祉・教育分野)

施 策		設 問 項 目	
1-1-1	健康づくりの推進	1	心身ともに健康で充実した生活を送る
1-1-2	保健・医療・福祉の連携	2	必要な時に適切な医療が受けられる
1-1-3	市民スポーツ・レクリエーションの推進	3	スポーツを習慣にした生活を送る
1-2-1	高齢者が生き生きできる福祉の推進	4	高齢者が自立して元気に生き生き暮らす
1-2-2	ハンディキャップを克服できる福祉の推進	5	障害のある人の社会参加と自立
1-2-3 1-2-4	自立できる生活の充実 ボランティアで支える地域福祉の推進	6	地域住民が共に支えあって暮らす
1-2-5	子育て環境の充実	7	安心して子育てと就労が両立できる
1-3-1	人間性豊かな子どもを育てる教育の充実	8	人間性豊かな子どもを育てる教育
1-4-1 1-5-1	自ら学ぶ環境の充実 富士山を象徴とする文化の育成	9	生涯学習や文化活動の機会や場所
1-4-2	次世代を担う青少年の育成	10	次世代を担う健全な青少年を育てる
1-6-1	コミュニティ活動の充実	11	地域コミュニティ活動の活発化

② 人と自然が調和した環境快適都市(自然・環境・都市基盤・安全分野)

施 策		設 問 項 目	
2-1-1	美しいまち景観の創出	12	恵まれた自然景観の活用
2-1-2	きれいな環境の維持・創出	13	ごみ不法投棄や公害への対策
2-1-3	リサイクルの推進	14	リサイクル活動
2-2-1 2-2-2	緑豊かな環境の充実 公園・広場の充実	15	身近な緑の環境
2-3-1	水に親しむ空間の充実	16	きれいな川を守り、水に親しむ
2-3-2	山や川の災害を防ぐ	17	山や川の災害を防ぐ

2-4-1	安全な水の確保と水資源の有効活用	18	上・下水道事業
2-4-2	きれいな水の流れる環境の創出		
2-5-1	裾野駅周辺の市街地整備の推進	19	裾野の顔となる拠点市街地の整備
2-5-2	周辺部の拠点整備の推進		
2-6-1	住みよい住環境の充実	20	誰もが住みやすい住環境の整備
2-6-2	バランスのとれた土地利用配置	21	適切な土地利用がされている
2-7-1	便利で快適な道路網の充実	22	道路網の便利さ、快適さ
2-7-2	生活に便利な交通機関の充実	23	鉄道・バスの便利さ
2-8-1	地震災害対策の充実	24	地震災害対策
2-8-2	消防・救急体制の強化	25	消防・救急体制
2-8-3	犯罪からまちを守る対策の充実	26	犯罪からまちを守る
2-8-4	安全な交通環境の充実	27	交通安全対策
2-8-5	安全で豊かな消費生活の確保	28	安全で豊かな消費生活

③ 新世紀を支える地域産業のパワーアップ(地域産業分野)

施 策		設 問 項 目	
3-1-1-	農業維持の体制づくり	29	農林業の活性化
3-1-2	林業の振興の充実		
3-2-1	緑豊かな工業地の確保	30	先進企業を核とした地場産業の活性化
3-2-2	先進企業の誘致と地場産業の育成		
3-3-1	にぎわいのある商業地の整備	31	にぎわいのある商業地づくり
3-3-2	創意と工夫による商業の振興		
3-4-1	新たな観光の創出	32	新たな観光地づくり
3-4-2	観光による地域の活性化		
3-5-1	裾野の魅力のPR	33	裾野市の全国に向けたアピール
3-5-2	時代に対応した情報の発信	34	時代に対応した情報の発信

④ 頑張る市民・支える市役所(市民主体・行財政分野)

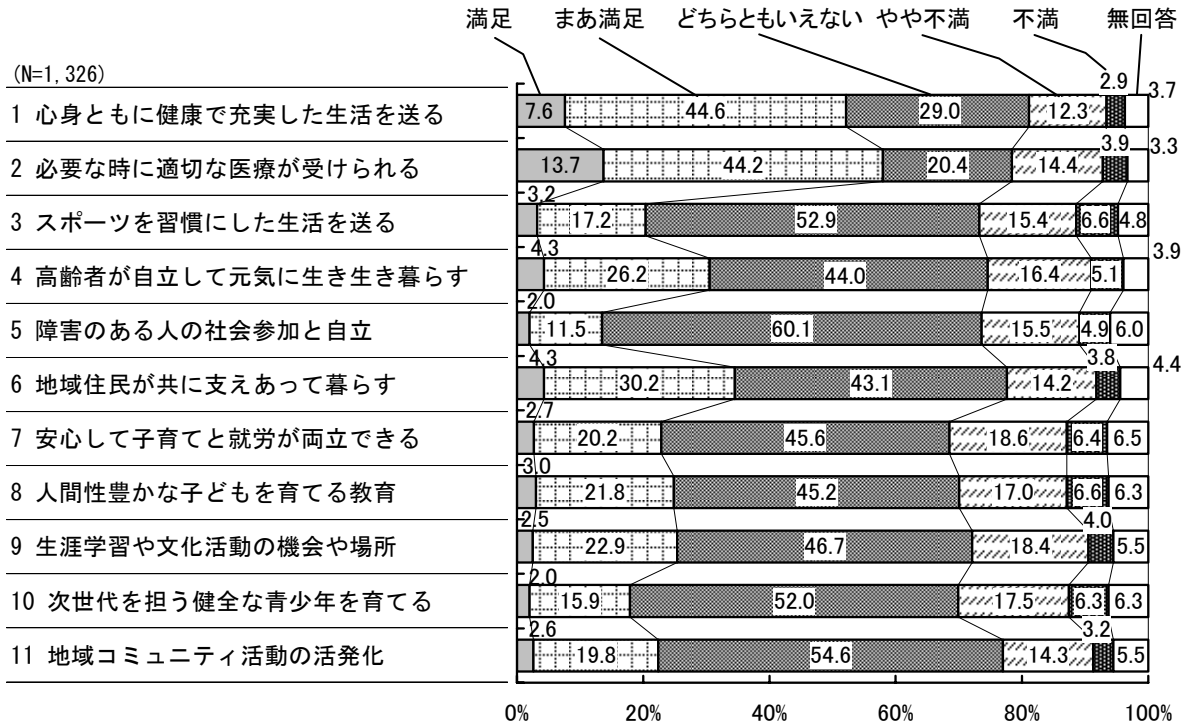
施 策		設 問 項 目	
4-1-1	市民の協働を目指した市民参加の推進	35	市民と行政の協働によるまちづくり
4-1-2	男女共同参画社会の推進	36	男女共同参画社会
4-1-3	透明性の高い行政運営の実現	37	市民のための行政サービス
4-1-4	開かれた議会活動の支援		
4-2-1	有効で効率的な行政運営確立		
4-2-3	活力ある組織人事の推進		
4-2-4	広域行政における連携の強化		
4-2-2	健全な財政運営の確保	38	健全な財政運営

満足度

スコア：「満足」=2 「まあ満足」=1 「どちらともいえない」=0 「やや不満」=-1 「不満」=-2

満足度=上記を回答人数に掛け、回答総数（無回答を除く）で除したもの

① みんなの健康 互いの福祉 人づくりと文化を世界に誇る(健康・福祉・教育分野)



■各項目の満足度比較

項目	平均		伸び
	平成18年度 (N=1,326)	平成19年度 (N=1,159)	
1 心身ともに健康で充実した生活を送る	-0.02	0.08	0.07
2 必要な時に適切な医療が受けられる	0.36	0.51	0.16
3 スポーツを習慣にした生活を送る	-0.10	-0.05	0.05
4 高齢者が自立して元気に生き生き暮らす	0.03	0.09	0.06
5 障害のある人の社会参加と自立	-0.17	-0.11	0.06
6 地域住民が共に支えあって暮らす	0.10	0.18	0.08
7 安心して子育てと就労が両立できる	-0.24	-0.06	0.18
8 人間性豊かな子どもを育てる教育	-0.17	-0.02	0.15
9 生涯学習や文化活動の機会や場所	-0.13	0.02	0.15
10 次世代を担う健全な青少年を育てる	-0.23	-0.11	0.12
11 地域コミュニティ活動の活発化	-0.04	0.04	0.08

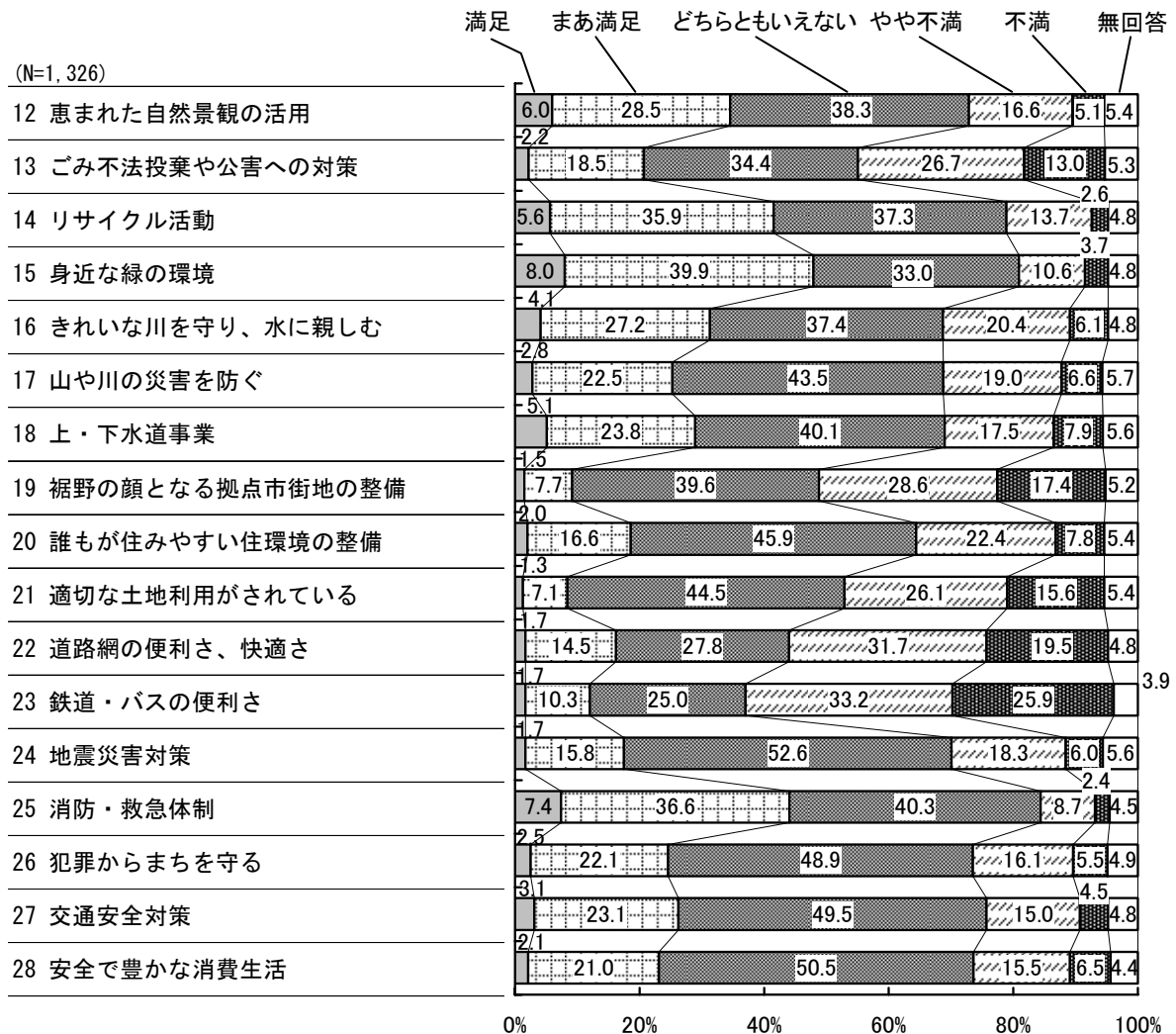
健康に関する項目は“満足”の割合の高い項目が多く、福祉や教育に関する項目は“不満”の割合が高い。満足度は平均、各項目とも前回から上昇している。

健康・福祉・教育分野において「満足」と「まあ満足」を合わせて“満足”の割合が高い項目は、『2 必要な時に適切な医療が受けられる』、『1 心身ともに健康で充実した生活を送る』の順で、いずれも“満足”が過半数になっている。一方、『7 安心して子育てと就労が両立できる』、『10 次世代を担う健全な青少年を育てる』は、「やや不満」と「不満」を合わせて“不満”が2割強の回答となっている。

満足度で見ると、前記したように、“満足”の割合の高い2項目は、満足度が0.4を超えて高い。一方、“不満”の割合の高い2項目は満足度がそれぞれ-0.06、-0.11であり、満足度の差は0.5ポイント以上となっている。他に『5 障害のある人の社会参加と自立』においても満足度は-0.11と低くなっている。

今回の調査における健康・福祉・教育分野の平均満足度は0.08となっており、前回平成18年度調査の結果と比較すると、満足度が0.1ポイント高まっている。各項目の満足度を前回と比べると、今回はいずれも前回の満足度を上回り、伸び率はいずれの項目もプラスとなっている。

② 人と自然が調和した環境快適都市(自然・環境・都市基盤・安全分野)



■各項目の満足度比較

	平成19年度 (N=1,326)	平成18年度 (N=1,159)	平均		伸び				
			平成18年度	平成19年度					
			-1.0	-0.5	0.0	0.5			
12 恵まれた自然景観の活用							0.09	0.15	0.06
13 ごみ不法投棄や公害への対策							-0.34	-0.31	0.03
14 リサイクル活動							0.37	0.29	-0.08
15 身近な緑の環境							0.41	0.40	-0.01
16 きれいな川を守り、水に親しむ							0.04	0.03	-0.01
17 山や川の災害を防ぐ							0.10	-0.04	-0.14
18 上・下水道事業							-0.07	0.01	0.08
19 裾野の顔となる拠点市街地の整備							-0.63	-0.56	0.07
20 誰もが住みやすい住環境の整備							-0.31	-0.19	0.12
21 適切な土地利用がされている							-0.58	-0.50	0.08
22 道路網の便利さ、快適さ							-0.61	-0.55	0.06
23 鉄道・バスの便利さ							-0.85	-0.74	0.11
24 地震災害対策							-0.13	-0.12	0.01
25 消防・救急体制							0.30	0.40	0.10
26 犯罪からまちを守る							-0.14	0.00	0.14
27 交通安全対策							-0.06	0.05	0.11
28 安全で豊かな消費生活							-0.04	-0.03	0.01

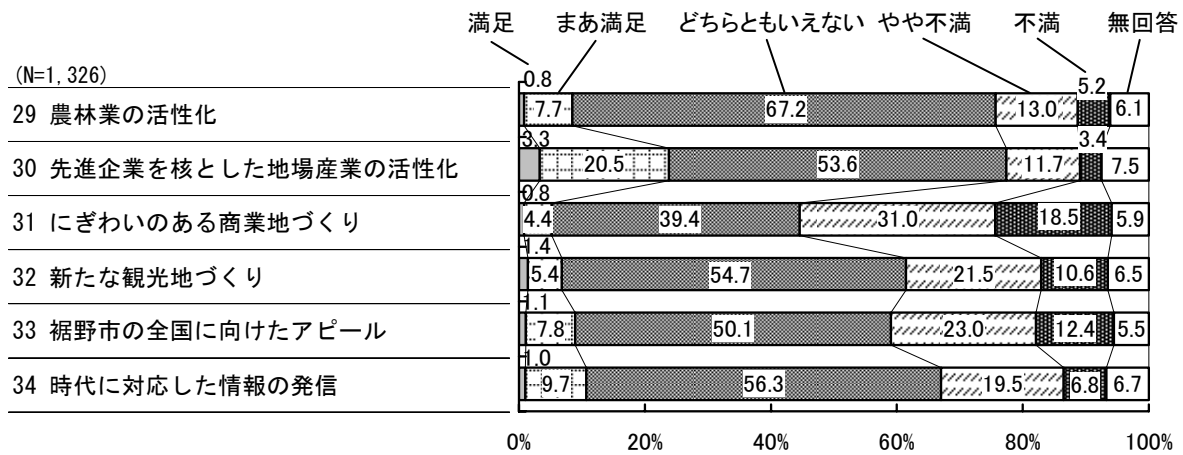
自然や環境に関する項目は、“満足”の割合は高いが満足度が前回より低下している項目が多い。都市基盤に関する項目は満足度が低いが、前回に比べて満足度は上昇している。

自然・環境・都市基盤・安全分野において「満足」と「まあ満足」を合わせて“満足”の割合の高い項目は、『15 身近な緑の環境』、『25 消防・救急体制』、『14 リサイクル活動』で、いずれも“満足”が4～5割となっている。一方、『23 鉄道・バスの便利さ』、『22 道路網の便利さ、快適さ』、『19 裾野の顔となる拠点市街地の整備』、『21 適切な土地利用がされている』などは、「やや不満」と「不満」を合わせて“不満”がいずれも半数前後を占めている。

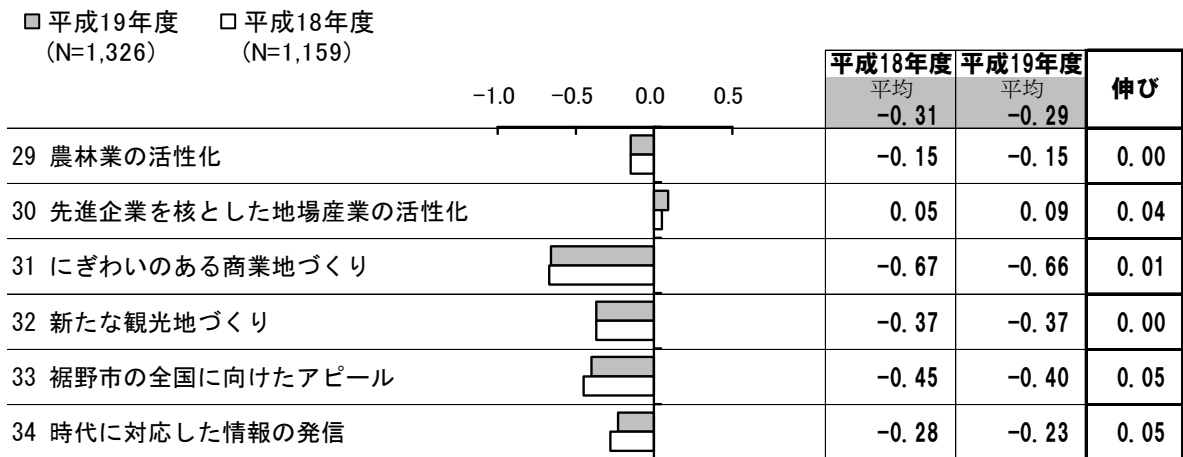
満足度で見ると、前記した“満足”の割合の高い3項目は満足度がマイナスの値となっている項目の多い自然、環境、都市基盤、安全分野の中で、それぞれ満足度が0.40、0.40、0.29と目立って高くなっている。一方、前記した“不満”の割合の高い4項目は満足度がそれぞれ-0.74、-0.55、-0.56、-0.50となっており、-0.5以下となっている。

今回の調査における自然・環境・都市基盤・安全分野の平均満足度は-0.10となっており、前回調査の結果とはほとんど変化がない。各項目の満足度を、前回と比較してみると、『20 誰もが住みやすい住環境の整備』、『23 鉄道・バスの便利さ、快適さ』、『26 犯罪からまちを守る』、『27 交通安全対策』では0.1ポイント以上の伸びとなっている。一方で、伸び率がマイナスとなる項目もあり、『17 山や川の災害を防ぐ』では伸びが-0.14となっている。

③ 新世紀を支える地域産業のパワーアップ(地域産業分野)



■各項目の満足度比較



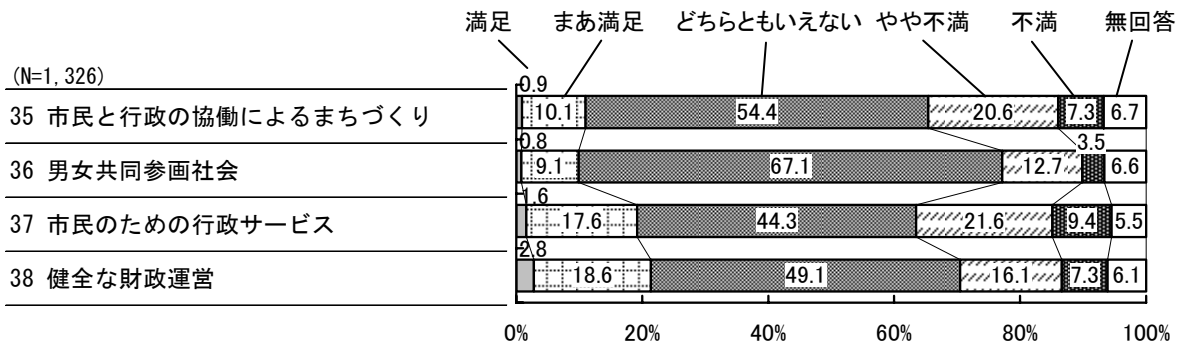
施策4分野の中で最も平均満足度が低い分野である。
しかし、全体的に前回より満足度は上昇している。

地域産業分野では『30 先進企業を核とした地場産業の活性化』で「満足」と「まあ満足」を合わせて“満足”の割合が高く、2割を超える。一方、『31 にぎわいのある商業地づくり』は「やや不満」と「不満」を合わせて“不満”がほぼ半数となっている。

満足度で見ると、『30 先進企業を核とした地場産業の活性化』を除くすべてがマイナスで、平均では-0.29となっており、施策4分野の中で最も低い満足度となっている。

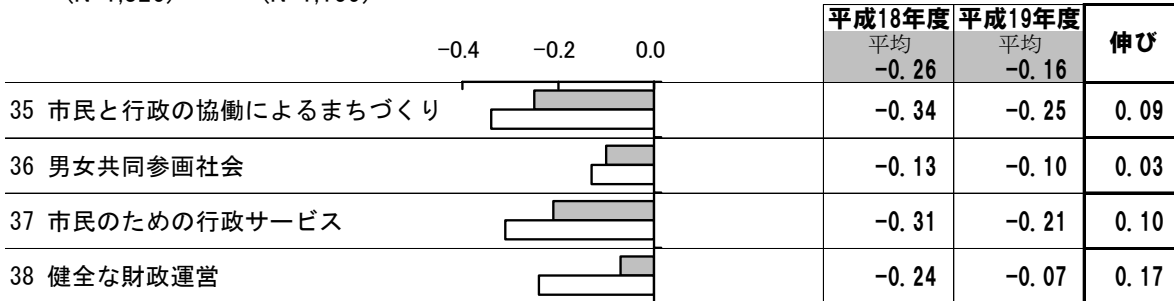
前回調査と平均満足度はほとんど変化が見られない。伸び率はいずれもわずかな範囲の変動にとどまっているが、いずれもプラスの伸びとなっている。

④ 頑張る市民・支える市役所(市民主体・行財政分野)



■各項目の満足度比較

□ 平成19年度 (N=1,326) □ 平成18年度 (N=1,159)



市民主体・行財政分野は全体的に満足度の低い分野である。
満足度は平均、各項目とも前回より上昇している。

市民主体・行財政分野では、『37 市民のための行政サービス』、『38 健全な財政運営』で「満足」と「まあ満足」を合わせて“満足”の割合が高いが、『37 市民のための行政サービス』は「やや不満」、「不満」の占める割合も高くなっている。

満足度はいずれもマイナスで、満足度の低い分野となっている。

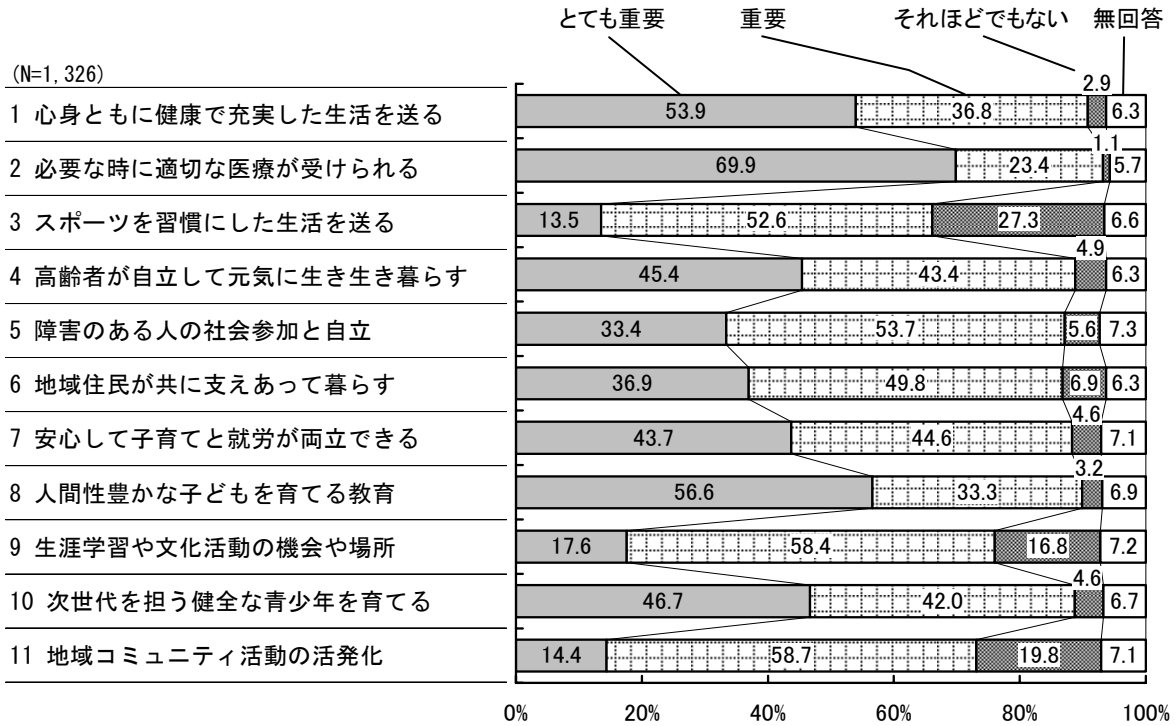
平均満足度は-0.16で、前回調査の平均満足度を上回り、わずかではあるが満足度は高まっているといえる。各項目の満足度を前回と比較してみると、各項目の伸び率は小さく、前回とほとんど差は見られないが、前記の2項目はそれぞれ0.1ポイント以上上昇している。

重要度

スコア：「とても重要」=2 「重要」=1 「それほどでもない」=0

重要度 = 上記を回答人数に掛け、回答総数（無回答を除く）で除したものの

① みんなの健康 互いの福祉 人づくりと文化を世界に誇る(健康・福祉・教育分野)



■各項目の重要度比較

□ 平成19年度 (N=1,326) □ 平成18年度 (N=1,159)

項目	スコア		平成18年度	平成19年度	伸び
	0.0	1.0	平均 1.27	平均 1.32	
1 心身ともに健康で充実した生活を送る	[Bar]		1.41	1.54	0.13
2 必要な時に適切な医療が受けられる	[Bar]		1.63	1.73	0.10
3 スポーツを習慣にした生活を送る	[Bar]		0.79	0.85	0.06
4 高齢者が自立して元気に生き生き暮らす	[Bar]		1.36	1.43	0.07
5 障害のある人の社会参加と自立	[Bar]		1.27	1.30	0.03
6 地域住民が共に支えあって暮らす	[Bar]		1.24	1.32	0.08
7 安心して子育てと就労が両立できる	[Bar]		1.42	1.42	0.00
8 人間性豊かな子どもを育てる教育	[Bar]		1.57	1.57	0.00
9 生涯学習や文化活動の機会や場所	[Bar]		0.95	1.01	0.06
10 次世代を担う健全な青少年を育てる	[Bar]		1.44	1.45	0.01
11 地域コミュニティ活動の活発化	[Bar]		0.88	0.94	0.06

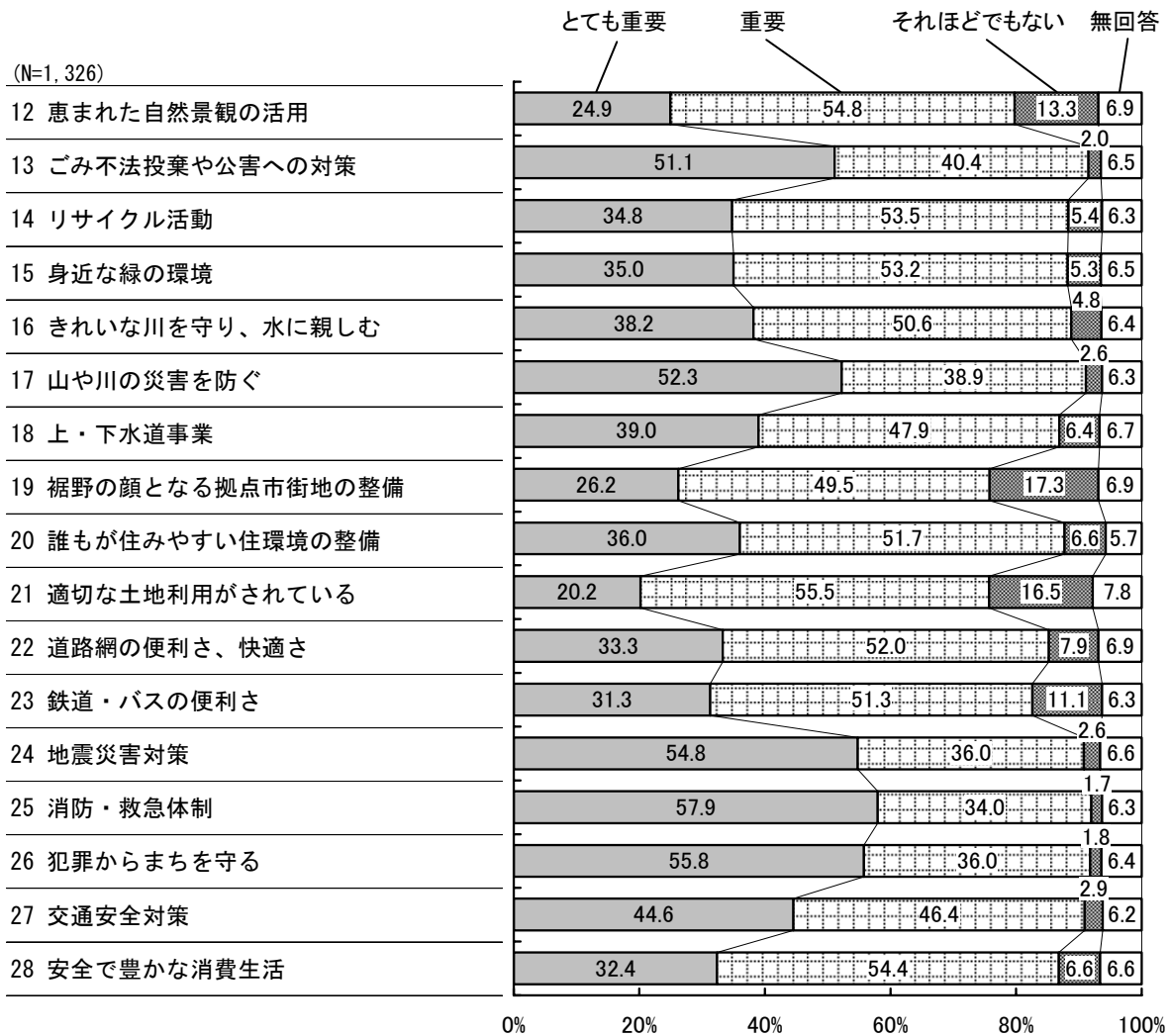
重要度の高い項目が多く、平均重要度は 1.32。
前回と比べすべての項目で重要度は高まっている。

健康・福祉・教育分野において、「とても重要」、「重要」を合わせて“重要”の割合は多くの項目で8～9割となっており、非常に高い。「とても重要」の高い項目は、『2 必要な時に適切な医療が受けられる』、『8 人間性豊かな子どもを育てる教育』、『1 心身ともに健康で充実した生活を送る』の順で、「とても重要」はいずれも過半数を占めている。一方、『3 スポーツを習慣にした生活を送る』、『9 生涯学習や文化活動の機会や場所』、『11 地域コミュニティ活動の活発化』の3項目については「それほどでもない」が2～3割を占めている。

重要度で見ると、前記した「とても重要」の高い3項目は重要度が1.5以上となっている。一方、前記した「それほどでもない」が高い3項目は重要度がいずれも1前後にとどまっている。

平均重要度は1.32である。前回平成18年度調査と比較すると、平均重要度は上昇しており、伸び率も各項目ともわずかであるが上昇している。

② 人と自然が調和した環境快適都市(自然・環境・都市基盤・安全分野)



■各項目の重要度比較

□平成19年度 (N=1,326) □平成18年度 (N=1,159)

	0.0	1.0	2.0	平成18年度	平成19年度	伸び
				平均 1.29	平均 1.35	
12 恵まれた自然景観の活用				1.11	1.12	0.01
13 ごみ不法投棄や公害への対策				1.48	1.52	0.04
14 リサイクル活動				1.30	1.31	0.01
15 身近な緑の環境				1.26	1.32	0.06
16 きれいな川を守り、水に親しむ				1.32	1.36	0.04
17 山や川の災害を防ぐ				1.43	1.53	0.10
18 上・下水道事業				1.26	1.35	0.09
19 裾野の顔となる拠点市街地の整備				1.01	1.10	0.09
20 誰もが住みやすい住環境の整備				1.26	1.31	0.05
21 適切な土地利用がされている				1.03	1.04	0.01
22 道路網の便利さ、快適さ				1.22	1.27	0.05
23 鉄道・バスの便利さ				1.13	1.22	0.09
24 地震災害対策				1.48	1.56	0.08
25 消防・救急体制				1.53	1.60	0.07
26 犯罪からまちを守る				1.55	1.58	0.03
27 交通安全対策				1.39	1.44	0.05
28 安全で豊かな消費生活				1.13	1.28	0.15

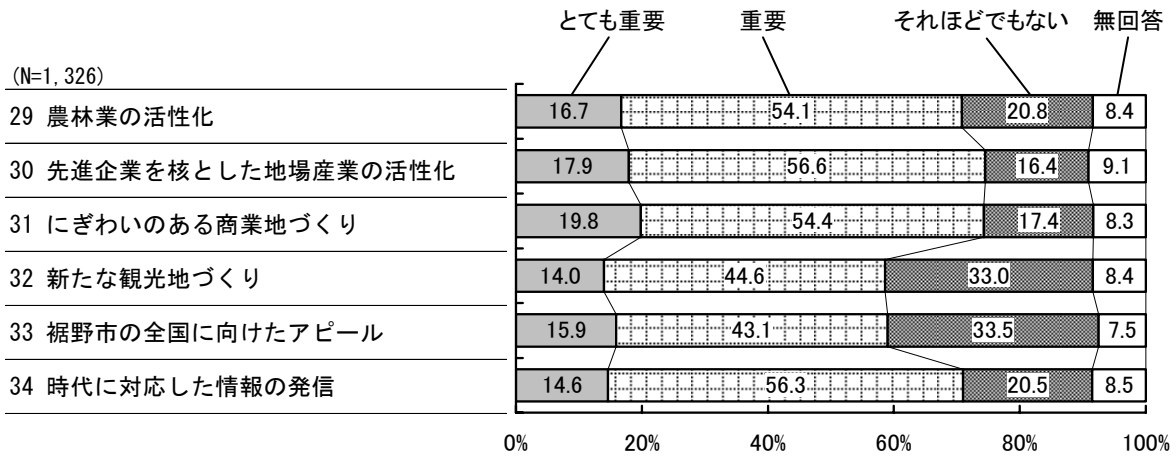
重要度は非常に高く、平均重要度は 1.35。
前回と比べすべての項目で重要度が上昇している。

自然・環境・都市基盤・安全分野の重要度は非常に高く、「とても重要」と「重要」を合わせて“重要”の割合が8～9割となる項目が多い。『13 ごみ不法投棄や公害への対策』、『17 山や川の災害を防ぐ』、『24 地震災害対策』、『25 消防・救急体制』、『26 犯罪からまちを守る』では「とても重要」が過半数を占めている。一方、『19 裾野市の顔となる拠点市街地の整備』や『21 適切な土地利用がされている』では「それほどでもない」が高くなっている。

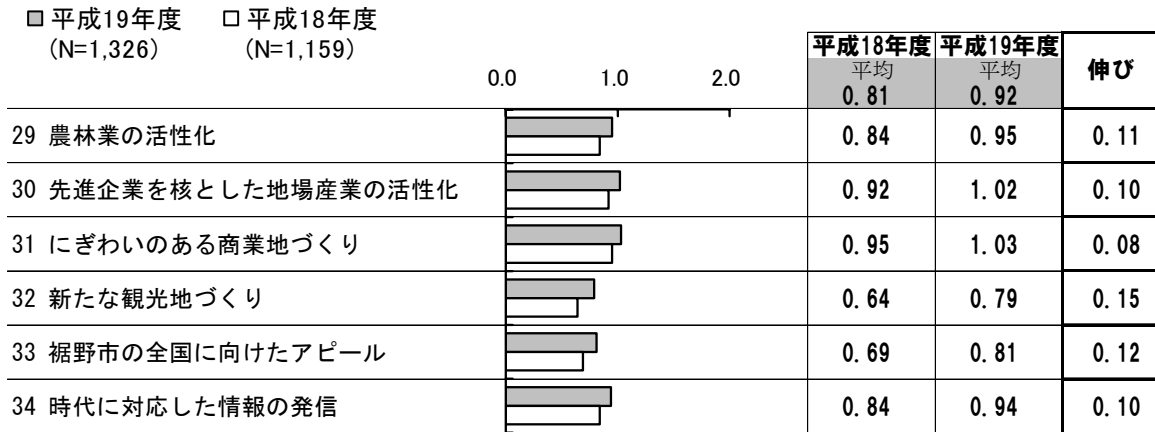
重要度で見ると、いずれの項目も1を超える重要度で、重要度が高いことが分かる。

平均重要度は 1.35 で、前回の調査と比較すると、すべての項目において前を上回っている。

③ 新世紀を支える地域産業のパワーアップ(地域産業分野)



■各項目の重要度比較

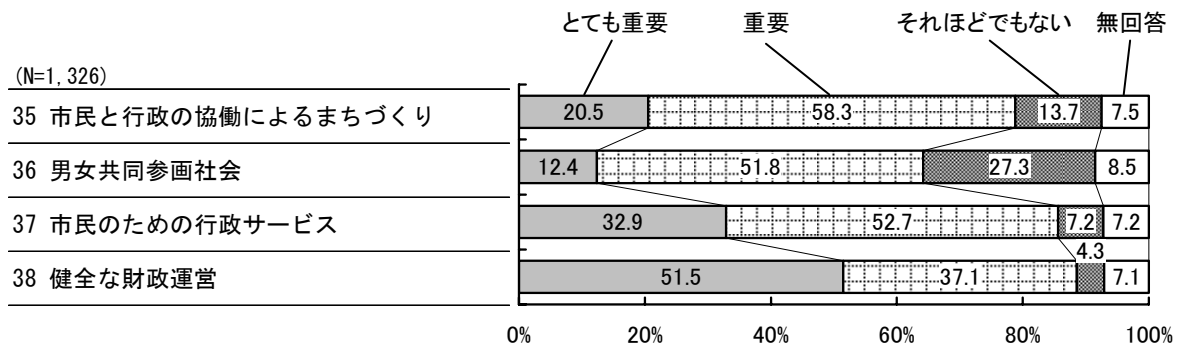


重要度は施策4分野の中で最も低く、1を下回る。
しかし、前回と比べるとすべての項目で前回より上昇している。

地域産業分野は健康・福祉・教育と自然・環境・都市基盤・安全の2分野と比べて、「とても重要」と「重要」を合わせて「重要」の割合が低く、「重要」は6～7割となっている。『32 新たな観光地づくり』、『33 裾野市の全国に向けたアピール』については「それほどでもない」が高く、いずれも3割を超える回答である。

重要度で見ると、平均重要度は0.92と1を下回っているが、前回と比較すると、すべての項目で前回の重要度を上回っている。

④ 頑張る市民・支える市役所(市民主体・行財政分野)



■各項目の重要度比較

項目	重要度比較		平成18年度	平成19年度	伸び
	平成19年度 (N=1,326)	平成18年度 (N=1,159)	平均 1.10	平均 1.18	
35 市民と行政の協働によるまちづくり	1.03	1.07	1.10	1.18	0.04
36 男女共同参画社会	0.76	0.84	1.10	1.18	0.08
37 市民のための行政サービス	1.19	1.28	1.10	1.18	0.09
38 健全な財政運営	1.41	1.51	1.10	1.18	0.10

市民主体・行財政分野では特に『38 健全な財政運営』は「とても重要」が過半数を超えて高く、重要度は1.51。

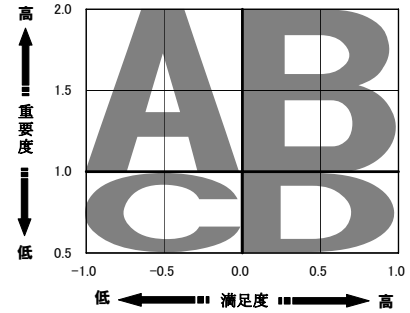
市民主体・行財政分野では、『38 健全な財政運営』で、「とても重要」が51.5%と過半数を占める。一方、『36 男女共同参画社会』では「それほどでもない」が高く、27.3%を占めている。

重要度は4項目中3項目で1以上となっているが、「それほどでもない」が高い割合を占めている『36 男女共同参画社会』は1を下回っている。

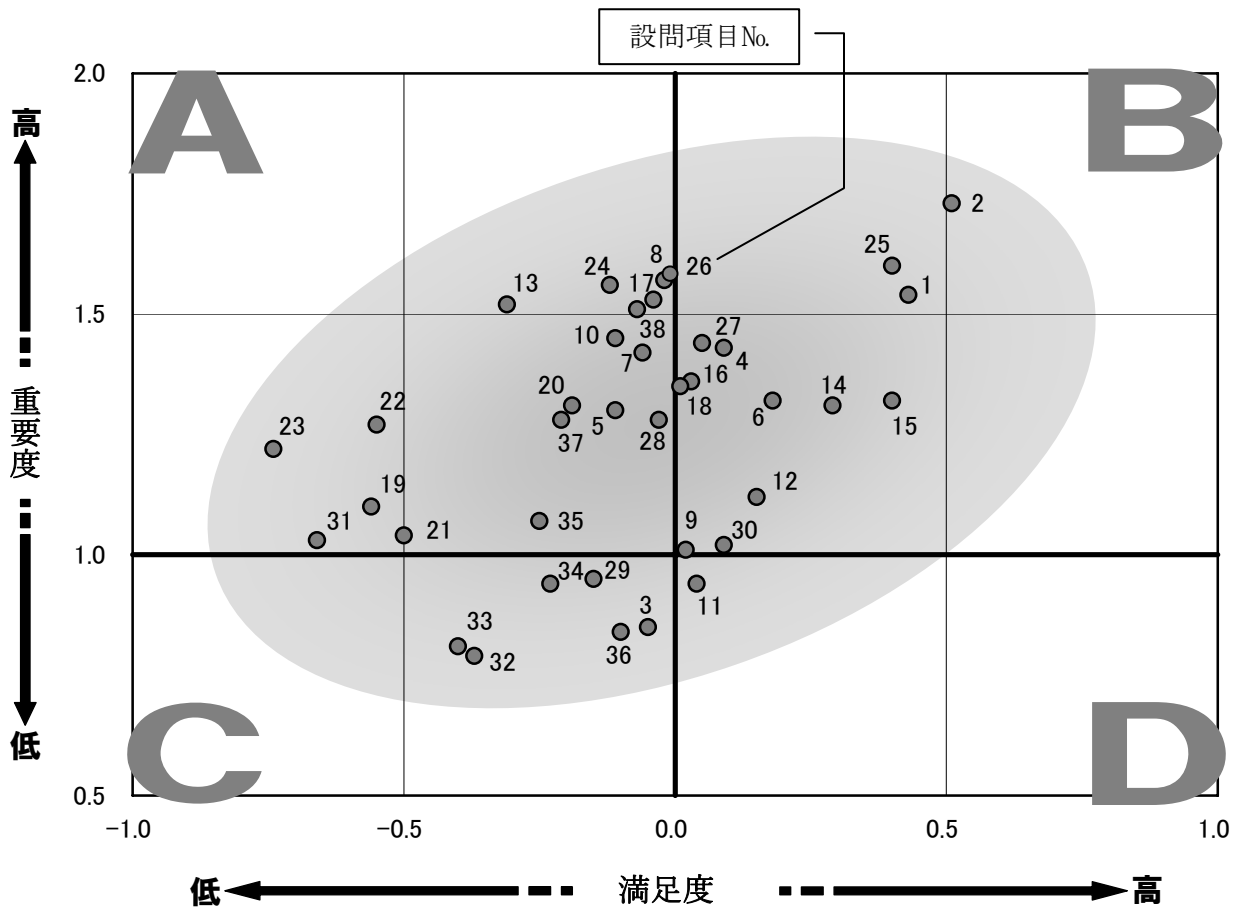
前回と比較すると、すべての項目で前回は上回り、特に重要度の高い『38 健全な財政運営』は伸び率が0.1となっている。

満足度・重要度による施策の分析

- Aゾーン：改善・改革していく施策（低満足度×高重要度）
- Bゾーン：維持・充実していく施策（高満足度×高重要度）
- Cゾーン：見直し・縮小していく施策（低満足度×低重要度）
- Dゾーン：維持・縮小していく施策（高満足度×低重要度）



※各設問の満足度、及び重要度を前記のように点数化（スコア）し、横軸を満足度、縦軸を重要度とし、分布状況をマトリクス的にとらえ、4領域に分類する。



* 施策項目No.は次頁表参照

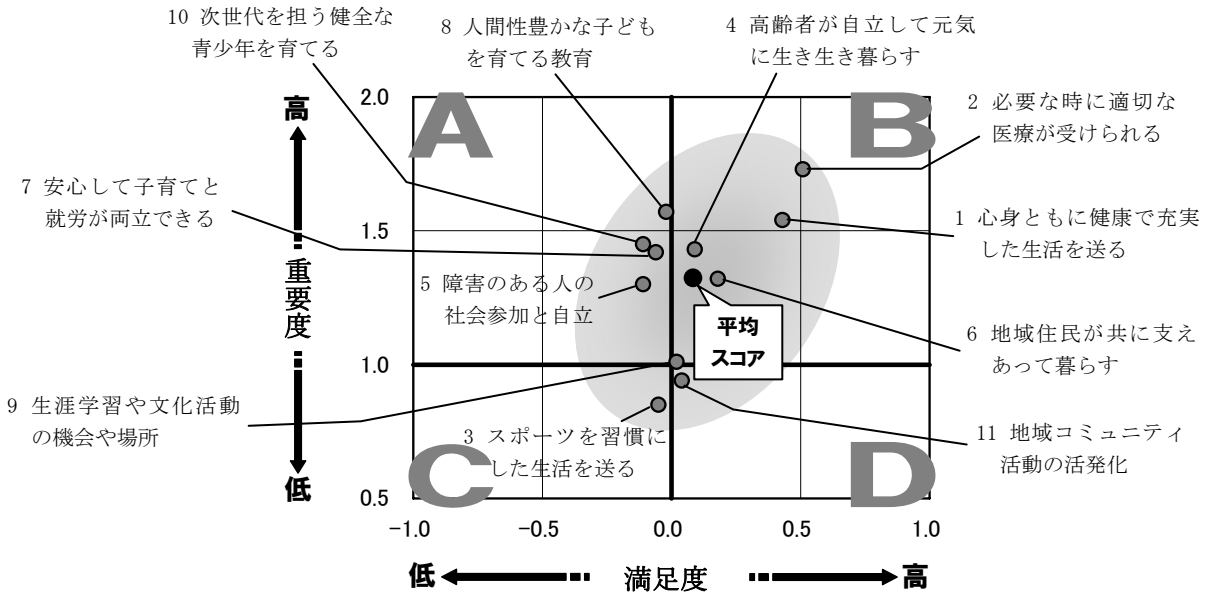
満足度が低くなく、重要度が高いAゾーンに項目が集中している。
自然・環境・都市基盤・安全の分野と、市民主体・行財政分野は特に多い。

全体的に、満足度が低くないが、重要度が高いAゾーンに項目が多く集まっている。特に施策4分類の②の分野である自然・環境・都市基盤・安全で項目が多くなっており、重点的に改善・改革を進める必要のある分野といえる。また、④の分野である市民主体・行財政分野においても4項目中3項目がAゾーンにあり、その必要性は高いといえる。なお、前記の満足度比較で満足度が0.00であった『26 犯罪からまちを守る』については、満足度が-0.000793であったため、Aゾーンに分類した。

『第3次裾野市総合計画後期計画』における分野別×4領域（ゾーン）別

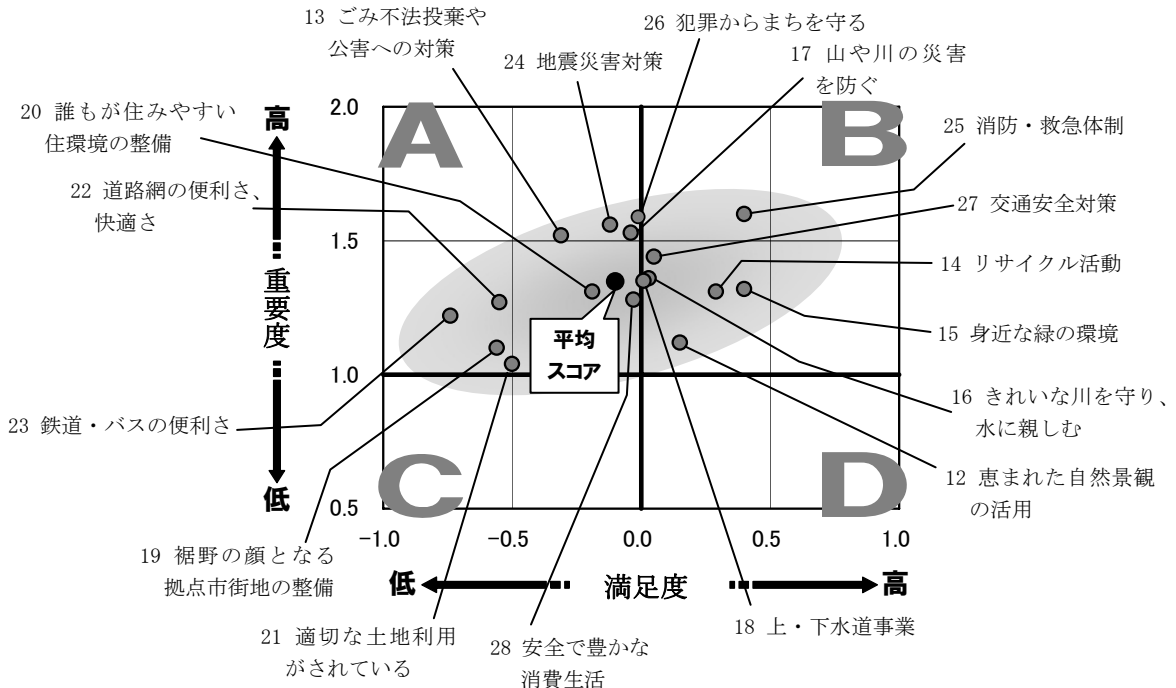
	Aゾーン:改善・改革 低満足度×高重要度	Bゾーン:維持・充実 高満足度×高重要度	Cゾーン:見直し・縮小 低満足度×低重要度	Dゾーン:維持・縮小 高満足度×低重要度
1 健康・福祉・教育	5 障害のある人の社会参加と自立 7 安心して子育てと就労が両立できる 8 人間性豊かな子どもを育てる教育 10 次世代を担う健全な青少年を育てる	1 心身ともに健康で充実した生活を送る 2 必要な時に適切な医療が受けられる 4 高齢者が自立して元気にいきいき暮らす 6 地域住民が共に支えあって暮らす 9 生涯学習や文化活動の機会や場所	3 スポーツを習慣にした生活を送る	11 地域コミュニティ活動の活発化
2 自然・環境・都市基盤・安全	13 ごみ不法投棄や公害への対策 17 山や川の災害を防ぐ 19 裾野の顔となる拠点市街地の整備 20 誰もが住みやすい住環境の整備 21 適切な土地利用がされている 22 道路網の便利さ、快適さ 23 鉄道・バスの便利さ 24 地震災害対策 26 犯罪からまちを守る 28 安全で豊かな消費生活	12 恵まれた自然景観の活用 14 リサイクル活動 15 身近な緑の環境 16 きれいな川を守り、水に親しむ 18 上・下水道事業 25 消防・救急体制 27 交通安全対策		
3 地域産業	31 にぎわいのある商業地づくり	30 先進企業を核とした地場産業の活性化	29 農林業の活性化 32 新たな観光地づくり 33 裾野市の全国に向けたアピール 34 時代に対応した情報の発信	
4 市民主体・行財政	35 市民と行政の協働によるまちづくり 37 市民のための行政サービス 38 健全な財政運営		36 男女共同参画社会	

① みんなの健康 互いの福祉 人づくりと文化を世界に誇る(健康・福祉・教育分野)



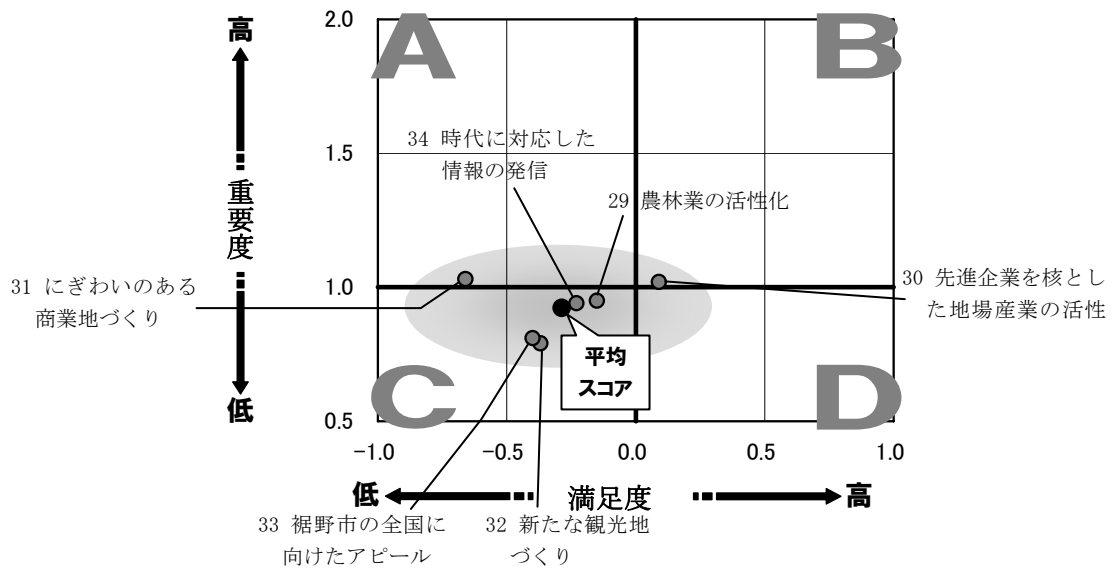
健康・福祉・教育分野は、全施策の中で満足度、重要度の高い項目が多く、改善・改革のAゾーンと、維持・充実のBゾーンにスコアが集中している。平均スコアはBゾーンにあり、満足度が0.08、重要度が1.32となっている。

② 人と自然が調和した環境快適都市(自然・環境・都市基盤・安全分野)



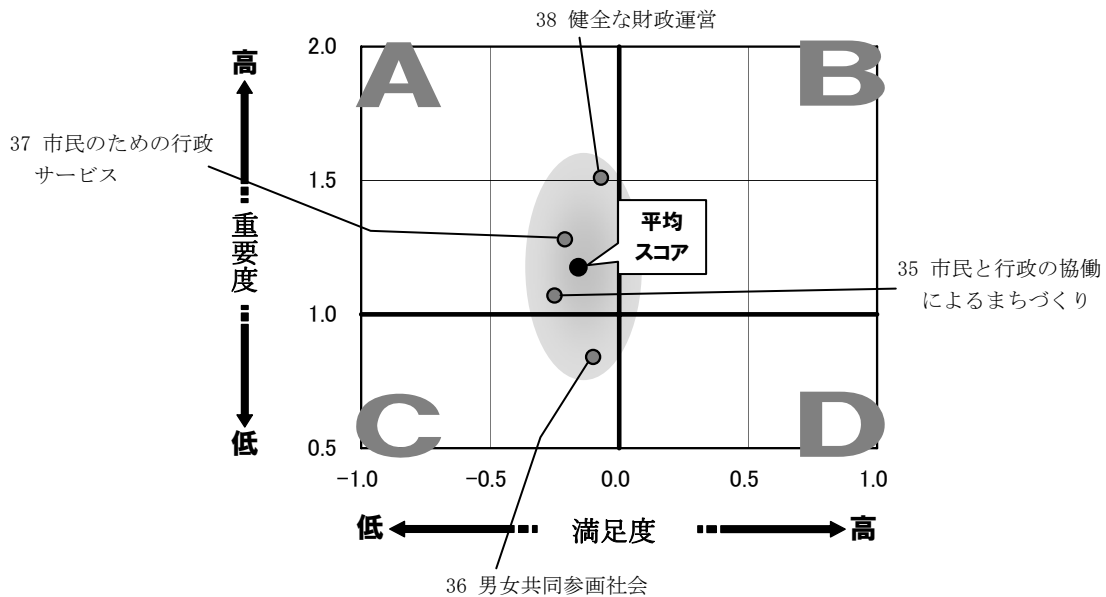
自然・環境・都市基盤・安全分野は、満足度の低い項目と高い項目とに大きな差があるが、重要度はいずれも1～2スコアの範囲内に集中している。ゾーンではAゾーンに集中しており、改善・改革が必要とされる項目が多いといえる。平均スコアは、満足度が-0.10、重要度が1.35である。

③ 新世紀を支える地域産業のパワーアップ(地域産業分野)



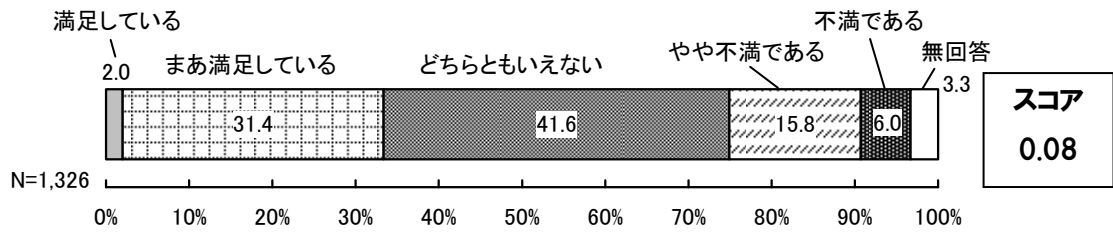
地域産業分野ではほとんどがCゾーンになり、全体的に重要度は低い。見直し・縮小していく方向性の項目が集まっている。平均スコアもCゾーンにあり、満足度が-0.29、重要度が0.92となっている。

④ 頑張る市民・支える市役所(市民主体・行財政分野)



市民主体・行財政分野は、満足度、重要度ともほぼ真ん中に位置しており、ゾーンとしてはAゾーンに位置する項目が多い。平均スコアは満足度が-0.16、重要度が1.18である。

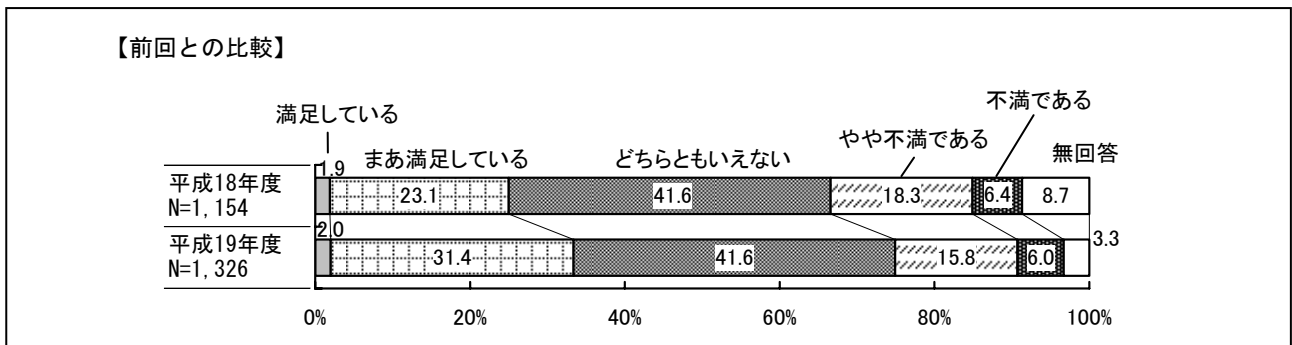
問6 市の政策全体について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

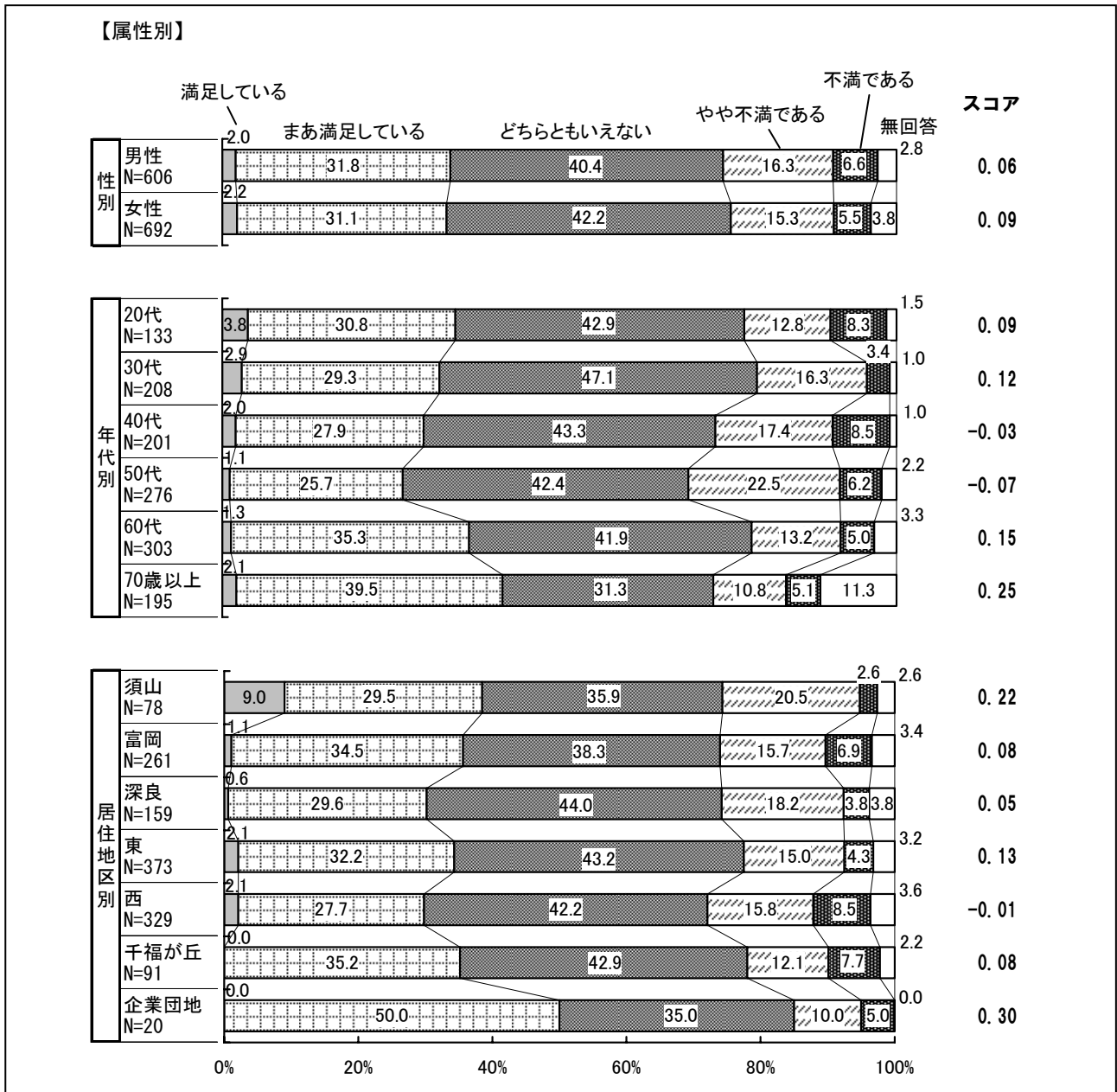


市政全体の満足度は“満足”が“不満”を大きく上回り、スコアは0.08。
満足度は40代、50代に低くなるものの、おおむね年代が上がるほど高い傾向。

市の政策全体に対する満足度は、「満足している」が2.0%、「まあ満足している」が31.4%となっており、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた“満足”は33.4%と約3人に1人の割合となっている。一方、「やや不満である」(15.8%)と「不満である」(6.0%)を合わせた“不満”は21.7%で、“満足”より11.7ポイント下回っている。スコアは0.08となっている。

下記のグラフのように前回の調査と比較すると、“不満”には大きな変化が見られないが、「やや不満である」はわずかに低くなっており、「まあ満足している」が前回より8.3ポイント高くなっている。





性別にみると、「満足」、「不満」とも大差は見られない。満足度をスコアにしてみた場合、女性の満足度の方がわずかに高くなっている。

年代別にみると、「満足」は50代までは年代が上がるほど低くなり、60代以上は高くなっていく。それに伴い、「不満」は50代まで高くなっていく。「不満である」は20代と40代で1割弱となっている。スコアで見ると、40代、50代に低くなるものの、全体的に年代が上がるほどスコアも上昇していく傾向がみられる。

居住地区別に見ると、「満足している」は須山が目立って高く、9.0%となっている。「まあ満足している」は企業団地で50.0%と半数となっている。スコアで見ると、須山と企業団地で高く、0.2~0.3となっている。また、満足度が低いのは西で、スコアは-0.01である。